

時限セキュリティ機能 PDFファイルに閲覧有効な「期限」と「回数」を付与設定できます。

閲覧の際に有効な「期限」と「回数」の設定をPDFファイルに対して付与でき、社内外に配布するPDFファイルの二次利用を防止し、機密性を確保して情報流出リスクを低減します。
本機能はこれまで別売で販売していたオプション製品「Plugin TimerPDF (タイマーPDF)」の機能を移植統合したものです。

PDFファイルに「閲覧有効期限」と「閲覧回数」情報を付与設定する [設定方法]

回数: 閲覧回数を設定します。
動作例) 3回と設定した場合、3回目の閲覧後にファイルが自動で削除されます。

期限: 有効期限日を設定します。
動作例) 有効期限日を過ぎるとファイルが自動で削除されます。

有効回数を超えると閲覧不可

有効期限を過ぎると閲覧不可

ファイル自動消去
ディスク上からデータが消去されます。ゴミ箱にも残りません!

閲覧回数

PDF作成時、閲覧できる有効回数を設定します。設定した回数に限りPDFファイルの閲覧が可能となります。設定した回数を超えると閲覧できなくなり、最終回閲覧後、PDFファイルを閉じる際にファイルが自動消去されます。

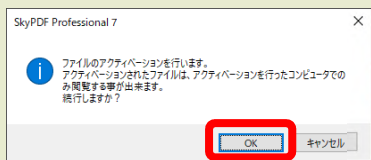
有効期限

PDF作成時、閲覧できる有効期限を設定します。設定した期限内に限りPDFファイルの閲覧が可能となります。期限を過ぎると閲覧できなくなり、PDFファイルを開こうとすると、ファイルが自動消去されます。

【注意】
※「回数」と「期限」両方設定した場合は、先に設定制限に達した時限セキュリティが有効となります。
※ 時限セキュリティ設定時の「回数」に「0」を設定することはできません。

「閲覧有効期限」と「閲覧回数」情報が付与設定されたPDFを閲覧する [閲覧方法]

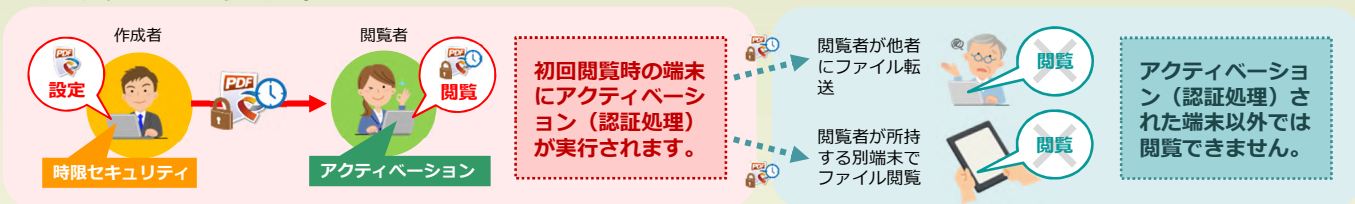
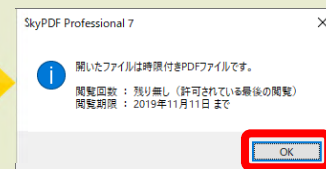
ファイルを開く際、メッセージが表示されます。



※1 アクティベーション (認証処理)

アクティベーション (認証処理) ※1 を実行します。

ファイルを閲覧できます。



例えばこんなシーンでお使いいただけます。

ウェブ上で不特定多数に対して公開する資料に閲覧可能な有効期限や回数を設けたい。

社外向けに実施した、セミナーや研修資料に閲覧制限を付与して流用や転用を防止したい。

社内保管用文書に有効期限を付与して、手動での削除作業負担を軽減したい。

「閲覧有効期限」「閲覧回数」情報が付与されたPDFを閲覧するには「SkyPDF Viewer 7」(スカイコムHPより無償ダウンロード: <https://www.skycom.jp/free/>) もしくは「SkyPDF Professional 7」、「SkyPDF Standard 7」いずれかのインストールが必要です。他社製PDFビューアでは、閲覧頂けません。